

九州大学経営協議会議事録

日時：平成22年3月16日（火）13：00～14：20

場所：九州大学本部第一会議室

出席者：（略）

【前回議事録の確認】

前回1月28日開催の議事録について確認があり、今後、ホームページへ掲載し、学内外へ公表する旨の発言があった。

【審議事項等】

1 役員の退職手当に係る業績評価について

3月末をもって退職する前理事（在任期間：平成16年4月1日～平成20年9月30日）の退職手当に係る業績評価について説明があり、審議の結果、これを議決した。

2 六本松キャンパス跡地の売却について

六本松キャンパスの跡地について、3月12日付で独立行政法人都市再生機構と売買契約を締結した旨の報告があった。

3 伊都キャンパス土地購入費について

伊都キャンパスの土地購入費について、平成21年度当初予算80億円、補正予算56億円に加え、今回追加予算として121億円が措置された旨の報告があった。

4 平成22年度計画について

平成22年度計画（案）の概要についての説明とともに、運営費交付金の算定ルールが確定していないため、今後修正を要する場合には議長一任とさせていただきたいとの発言があり、審議の結果、これを議決した。

今後、役員会へ附議したうえで文部科学省へ届け出ることとした。

その際、以下のような意見等があった。

- ・「がんセンター関連院内組織の整備を行う」とあるが、具体的にはどのようなことを行うこととしているのか。
→九大病院は福岡県の都道府県がん診療連携拠点病院に指定されており、がん登録やがん相談支援の推進のほか、地域医療と連携についてさらに推進していくこととしている。
- ・大学院での教育方法は分野の特性に応じて異なるのだろうが、近年、線の細い学生が増えているため、集団的な教育を行った方がよいのではないか。
- ・「学部等ごとにカリキュラムと科目の整合性を検証する体制を整備する」とあるが、学士課程については学部ごとではなく大学全体として検討すべきではないか。また「教育の国際化を踏まえた学士課程教育の在り方について検討」とあるが、これはまずは国際化の観点から検討を始めるということか。
→中期目標に、全学的な観点から「教育内容及び方法を整備・改善し、一貫した学

士課程教育を実施する」ことを掲げており、これを達成するため中期計画及び年度計画に学部ごとに取り組むことを明記させていただいている。また現在進めているグローバル30に関する各種取組みの状況や、国際教養学部（仮称）構想などを踏まえ、「教育の国際化を踏まえた学士課程教育の在り方」と表記させていただいている。

- ・農学部において、農業を研究する人材だけでなく、農業を担う人材も養成できないか。
- ・優秀な留学生受入れ数を約200名増とすることが掲げられているが、単に数合わせをするのではなく、優秀な留学生を惹きつける求心力を九州大学がいかに高めていけるかということが重要。

5 役員給与規則等の改正等について

役員給与規則等の改正等について説明があり、審議の結果、これを議決した。

6 国立大学法人九州大学予算編成方針（案）等について

平成22年度の予算編成方針（案）等について説明があり、審議の結果、これを議決した。

その際、以下のような意見等があった。

- ・病院の収入・支出はどうなっているのか。病院だけの予算も示していただきたい。
- ・目的積立金が、平成21年度は約88億円あったのに、平成22年度は0円となっているが、なぜこのように大きく変動するのか。

→平成22年度から第二期中期目標期間に入ったが、目的積立金については本学のキャンパス移転事業のような中期目標期間を超えて実施する必要がある事業など、合理的な理由がある場合に用途を特定したうえで文部科学大臣の承認を得て次期に繰り越すことができるとされている。今後、文部科学省へ繰越の申請を行う予定であり、承認を得ていない現時点では資料上0円としている。

7 平成22年度資金運用計画（案）について

平成22年度の資金運用計画（案）について、運用の考え方、運用資金、運用計画及び運用益の用途の説明があり、審議の結果、これを議決した。

（ 以 上 ）